

## 上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の説明書

### 【目的・方法】

食道・胃・十二指腸の疾患を診断するための検査です。まず、鼻とのどの麻酔をしてから（局所麻酔）、鼻腔あるいは口腔から内視鏡を挿入します。そして空気で膨らませながら食道・胃・十二指腸を観察します。必要に応じて、粘膜組織の採取（生検）を行います。局所麻酔などの検査前処置に 10-15 分ほどかかります。内視鏡検査自体は 3-4 分で終了します。本検査によるがんの発見率は 0.5%-1%（200 人に 1 人です。）

### 【合併症】

全ての医療行為にはリスクがあり、あるお一定の確率で合併症が起こりえます。本検査においても下記の合併症が報告されています。医療機関においては、検査前にこの合併症について患者様にお伝えする義務があります。

#### 1) 局所麻酔によるアレルギー反応

→キシロカインという局所麻酔を使用します。歯科治療などでもよく使用されるお薬です。麻酔薬によるアレルギー反応・血圧低下（ショック）が生じる可能性があります。今までに歯科治療の麻酔で気分を悪くされた経験がある方は検査前にスタッフにお知らせください。

#### 2) 顎関節脱臼・歯の損傷

→マウスピースを噛みしめることで、顎関節を脱臼したり、動揺歯（グラグラした歯）が損傷（折れたり、欠ける）することがあります。不安定な歯がある場合はスタッフにお知らせください。

#### 3) 内視鏡が鼻腔を通過するときに伴う鼻出血・疼痛

→約 10 人に一人の割合で鼻腔が狭い方がおられます。その場合は鼻出血・疼痛を防ぐために、鼻腔からではなく、口腔からの内視鏡挿入に切り替えて行うことがあります。

#### 4) 内視鏡に消化管粘膜の重篤な損傷（輸血を必要とする出血・緊急手術を必要とする穿孔）

→このような合併症の発生頻度は 0.005%（2 万人に 1 人）と報告されています。

当院の医師によるこれまでの検査件数（胃カメラ約 5 万件）の中でこのような経験はありません。しかし、万が一このような合併症が生じた場合は、適切な処置を行い、責任を持って入院治療可能な連携病院への転送手配を致します。

たけだ内科・消化器クリニック 院長 武田 翔伍